



真・善・美

<https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/shizuchu/>

附中だより

令和4年5月10日

電話番号 255-0137

新しい時代を創造する附中創りを

校長 生田目 治善

令和4年度がスタートしました。本年度もよろしくお願いいたします。

さて、本校は駿府城公園の一角に位置しています。昭和22年に静岡第一師範学校男子部附属中学校として新設開校され、同26年に静岡大学教育学部附属静岡中学校と改称し、現在に至ります。本年で創立75年を迎える歴史と伝統ある学校です。

静岡大学教育学部附属学校園の一つとして、中学校教育の理論的、実証的研究を行うとともに、地域と学校が連携し教育研究の成果の交流を行うこと、教育学部の計画に沿って学生の教育実習を行うという役割を担っています。教育実習を行った多くの学生は、県内を中心に全国で活躍しています。また、研究面では、先進的な実践研究成果を発信すべく、人間形成に資する学びと教科をテーマとして、日々研鑽を積んでいるところです。

本校の教育方針の特色は、長年以來受け継がれてきた校訓に象徴されています。体育館の正面ステージ左右の壁面に、「真善美」と「自主独立」の二つの大きな額が掲げられています。「自主独立」は、初代校長の伊藤秀夫先生が目指す人間像として、「環境に順応するだけでなく、環境を創造的に理想の方向に作り変えていく知性と意欲と技術をもった独立の人間」とあり、「真善美」は、校歌にある真と善に「美」を加えて、人間の最高の価値である「真善美」としたとあります。昭和、平成、令和と時代は変わっても、「真善美」「自主独立」の精神は、本校の教職員や生徒たちに脈々と受け継がれ大切にされております。



最後に、ここ数年、未来への不確実性が高まり、サステナビリティ（持続可能性）が、より求められるようになりました。今までの社会では、水平的な成長、いわゆる知識やスキルを獲得することが求められていましたが、これからの時代では、意識構造を変容していく垂直的な成長、つまり心の成長がより求められるようになりました。

心の成長とは、「考える心」「想う心」「感じる心」をアップデートすることです。考える心は「真」、想う心は「善」、感じる心は「美」。本校が長年大切にしてきた校訓そのものです。

生徒の皆さんには、価値観の異なる複数の「真」と「真」がぶつかり合うことで新たな「真」を生み出す本校の学びや附中創りを基盤として、これからの時代をたくましく生き抜き、誰もが安心して過ごすことができる平和で新しい社会を創ってほしいと願っています。